

2023 年度 (令和 5 年度) 学校評価自己評価表

大門中学校区	校番39	福山市立旭丘小学校
最終更新日	2024 年 (令和 6 年) 2月 20 日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性 共感力
<ul style="list-style-type: none"> 子ども主体の活動を推進する。 情報発信及び地域行事への参加等により、地域と学校の協力体制を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力・表現力が弱い。 自尊感情が高まりつつあり、主体的に行動する姿が見えてきた。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、自分の職業を選択し、表現できる力をもった子ども
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 「子ども主体の学び」に向けた授業を創る。 レーダーチャート等を活用し、学級力や自尊感情、主体性を高める取組をする。(年3回アンケート実施) 学校における働き方改革を進める。

III 自校

ミッション	一人一人のよさを仲間と共に輝かせる子どもを育て、地域に誇れる学校を創る	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力	思考力・判断力・表現力	主体性・積極性	共感力	
学校教育目標	自ら考え 共に輝く	めざす子ども像	1・2年	自分で疑問や課題を見つけ、生活体験や既習事項をもとにして解決しようとしている。	生活体験や既習事項から自分の考えをもち、絵や言葉、動作などを駆使して順序立てて表現している。	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	身近な人に温かい心で接している。
			3・4年	疑問に思ったことから課題を設定し、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えをもち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。	集団の中で、自分がやるべきことに気づき、進んで行動している。	相手の気持ちを考え、行動している。
			5・6年	自ら設定し課題について、生活体験や既習事項、収集した事項を根拠にして解決し、新たな課題を見つけている。	適切な理由や根拠をもとに、自分の考えをもち、目的や意図に応じて、説明したり、適切な方法で表現したりしている。	相手や場の状況に応じて、自分で目標をもち、自分から行動している。	相手を思いやることの大切さに気づき、相手の立場を尊重し、行動している。
現状	<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な学力は定着している。(全国学力学習状況調査で全国平均を上回る) 友達との対話を通して考えを深めたり、広げたりすることができている。 「自分の考えや良さが認められている」84.9% 目標をもって物事に取り組むことができている。自分で責任をもってやり切る経験を積み重ねることで自己肯定感をさらに高めていく必要がある。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 「学びが楽しい」89%、「授業がよく分かる」96% 研修計画に沿って研修を実施したり Googleclassroom の研究室を活用したりして、教職員が意欲的に授業改善に取り組んでいる。 子ども主語と教材主語を意識した教材研究を進めるとともに、児童の多様な考えを生かした授業づくりをさらに進める。 		テーマ	自分で考え判断し、表現力を高める授業づくり			
			研究	内容等	児童自身が、判断・選択することを通して、自ら学習に向かう意欲を育み、自分の考えや思いを自分の言葉で語る力を育成する授業づくり		
			めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 児童が「学びが楽しい」と思える授業 課題解決に向けて、児童一人一人が判断・選択し、自分なりの方法で表現できる力をつける授業 			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立旭丘小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	加 点 評 価	達 成 評 価	改善方策	□指標に係る 取組状況	加 点 評 価	達 成 評 価	総 合 評 価	改善方策
4	基礎基本の学力を定着させ、論理的思考力・判断力・表現力を高める。	★	見直し	子ども主体の授業づくりを進め、自ら学ぼうとする意欲を育む。	ICTを有効活用しながら、子ども主体の授業づくりに取り組み、研修を通して実践交流を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「進んで学習に取り組もうとしている」の肯定的評価85%以上。 ・児童が、自分にとって必要な学習、興味のある学習を自ら選んで取り組んでいるかの見とり80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童アンケート肯定評価 93% □教職員の見取り 73.5% 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の仕方や定着の状況などを、児童が自ら振り返る時間を設定し、児童自身が学習を改善したり、教員が児童の状況を見取ったりできるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童アンケート肯定評価 92% ◎児童が自ら学ぼうとする姿が見られるようになった。 □教職員の見取り 83% ◎児童が選択する場を効果的に設定できた。 	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の仕方や定着の状況などを、児童が自ら振り返ることができるようになってきたが、ふりかえりに時間を要する児童には教員が適切な支援を行う。
1	自他を認め合い、自分で考え、行動できる子どもを育てる。		新規	自分で判断して実行する力(自己指導能力)を育成する。	児童会が中心となり、児童全体が主体的に取り組める内容を計画し、実践していく。 特別活動の学級会などを通して、児童が自ら決め、実行できるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの「相手のよさ・自分のよさを見付けている」85%以上。 ・行事や特別活動などの取組において、自分で考えて行動できたか、振り返りを通しての見取り80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童アンケート肯定評価 85.2% □教職員による児童の振り返りの見取り 83.3% 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や委員会の取組などで、児童同士で認め合う場を設定する。 ・行事などを行うときには、目標をはっきりとさせ、そこに向けて自分で考えて行動できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> □児童アンケート肯定評価 89.7% ◎自分で判断して実行する力が育ってきた。 □教職員の見取り 87.9% ◎行事や特別活動で、児童が自ら決め、実行できる場を設定できた。 	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、行事や委員会の取組などで、児童同士で認め合う場を設定する。 ・行事などを行うときには、目標をはっきりとさせ、掲示や発表等で意識付けを継続して行う。

6	主体的に体力を向上させる児童を育てる。	継続	体力向上のための自己目標を持ち取り組む児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 目標達成のための場を設定する。 目標達成に向けて、振り返りシートを作成し、自己の取組について振り返り、主体的に改善を図る。(通年) 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「子どもが場を活用し、主体的に取り組むことができた」児童の割合85%以上。 目標達成に向けて、振り返りシートを活用して、自身の課題設定を行い、取り組むことができたかの見とり80%以上。 	<input type="checkbox"/> 児童アンケート肯定評価 61.4% <input type="checkbox"/> 振り返りシートは2学期から活用を開始した。猛暑のため室内で行う体力向上コーナーの工夫、改善を進めた。	2 2	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で体力向上のために行う運動を児童に紹介する。 自分の体力の課題について向き合う時間を設定し、自分が取り組むことができる運動について考え実践していく。 	<input type="checkbox"/> 児童アンケート肯定評価 80.7% <input checked="" type="checkbox"/> 児童が目標をもって取り組めた。 <input type="checkbox"/> 教職員による児童の見取り 76.3% <input checked="" type="checkbox"/> 児童が目標をもって取り組めるように場を設定できた。	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、体力向上コーナーを設置したり、運動動画を配信したりして取組を進める。 振り返りシートを活用することのよさを児童に伝え、積極的に活用できるようにする。
1	働き方改革の意義を理解し、教育の質の向上を図る。	★ 新規	<ul style="list-style-type: none"> 業務内容を精選しながら質を高め業務を遂行するとともに、教職員の強みを生かした取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 定時退校を厳守するとともに、見通しをもった業務管理を行う。 教職員一人一人が子ども主体の授の実現に向けた自己課題を設定し、授業改善を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員が、時間外勤務時間を月45時間以内の中で、計画的に業務を進める。 授業づくりにおける自己課題に関わる取組が児童の成長に繋がっていると全教職員が実感できる。 	<input type="checkbox"/> 時間外勤務月45時間以内 94.4% <input type="checkbox"/> 教職員アンケート肯定評価 92.9%	3 3	<ul style="list-style-type: none"> 業務の優先順位と健康管理を意識し、業務の進捗状況を定期的に確認する。 教職員間での授業参観や意見交流の場を月1回以上設定する。 	<input type="checkbox"/> 時間外勤務月45時間以内 94.2% <input checked="" type="checkbox"/> 業務の優先順位を考え、協働して取り組むことができた。 <input type="checkbox"/> 教職員アンケート肯定評価 92.3% <input checked="" type="checkbox"/> 児童主体の授業実現に向けた授業改善の取組ができた。	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、業務の優先順位と健康管理を意識し、業務の進捗状況を定期的に確認する。 教職員の自己課題に関わる授業参観や意見交流の場を、適宜設定していく。
1	保護者・地域から信頼される地域とともにある学校をつくる。	新規	<ul style="list-style-type: none"> 地域とつながり、保護者からの満足度の高い教育活動を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育活動や子ども・教職員の頑張りや成長を学校だよりやHP等で、タイムリーに発信し、保護者に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート「学校の教育活動に満足している」の肯定評価を90%以上。 	<input type="checkbox"/> 児童や教職員の頑張りやタイムリーにHP等で発信することで保護者アンケート肯定評価 94.2%	3 3	<ul style="list-style-type: none"> タイムリーなHP掲載を継続する。 児童を通して学校と地域とが繋がる場を増やし、地域との関係強化に努める。 	<input type="checkbox"/> 児童や教職員の頑張りやタイムリーにHP等で発信することで保護者アンケート肯定評価 94.6% <input checked="" type="checkbox"/> タイムリーなHP掲載や学校だよりで発信ができた。	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、児童を通して学校と地域とが繋がる場を増やし、地域との関係強化に努める。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。